

ベースB大壁工法

通気半乾式モルタル工法

標準施工手順書

ベースBラス
貼り

+

ベースモルタルB

塗厚合計 15 mm以上

国土交通大臣認定

【45分準耐火構造】(胴縁通気工法)		塗厚
QF045BE-0527	木造軸組通気外壁	15mm以上
QF045BE-0528		
QF045BE-0529		
QF045BE-0530		
QF045BE-0544		
QF045BE-0545	木造枠組通気外壁	15mm以上
QF045BE-0546		

【1時間準耐火構造】(胴縁通気工法)		塗厚
QF060BE-9214	※外壁	15mm以上

ベースB大壁工法 施工手順書 通気半乾式モルタル工法

《 目 次 》-1-

《 目 次 》	- 1 -
1. 目 的	- 2 -
2. 用 途	- 2 -
3. 規格・法令	- 2 -
4. 工法の品質について	- 2 -
5. 施工フローチャート	- 3 -
6. 検 査	- 4 -
6-① 躯体確認(施工前のチェック事項)	- 4 -
6-② ベース B ラス張付け後の確認	- 4 -
6-③ ベース B ラス貼りあがり状態の確認及び左官施工後の確認	- 5 -
7. ベース B 大壁工法 施工手順	- 5 -
7-① ベースBラスの施工手順	- 5 -
7-② 目地の施工手順、上塗りの施工手順	- 9 -
7-③ ジルコネット S 伏せ込み	- 11 -
8. 使用材料及び推奨工具	- 12 -
9. 安全対策と応急処置	- 14 -
9-① 安全対策	- 14 -
9-② 応急処置	- 14 -
10. 産業廃棄物の取り扱い	- 15 -
11. 注意事項及び禁止事項	- 15 -
12. 施工図面及び参考例	- 16 -
12-1-1 軸組から仕上げまでの納まり (面材がある場合)	- 17 -
12-1-2 通気胴縁の設置位置図	- 18 -
12-1-3 面材を用いる場合の胴縁張付け図	- 19 -
12-1-4 ベースBラスステーブル留付位置図	- 20 -
12-1-5 出隅の (通気胴縁) 納まり	- 21 -
12-1-6 入隅の納まり詳細参考図	- 22 -
12-1-7 サイディングとの併用時の納まり例	- 23 -
12-1-8 土台廻りの納まり例	- 24 -
12-1-9 軒天の納まり例	- 25 -
12-1-10 換気扇廻りの納まり	- 26 -
12-1-11 下屋部の納まりー通気木口板金後付の場合	- 27 -
12-1-12 サッシ廻りの納まり例	- 28 -
12-1-13 バルコニーの納まり例	- 29 -
12-1-14 袖壁部の納まり	- 30 -
12-1-15 サッシ廻りの防水納まり	- 31 -
12-1-16 透湿防水シートの納まり	- 32 -
12-2-1 軸組から仕上げまでの納まり (面材のない場合)	- 33 -
12-2-2 通気胴縁の設置位置図 (面材のない場合)	- 34 -
12-2-3 面材無しの場合の胴縁張付け図	- 35 -
12-3-1 ベース B ラス認定番号表 (軸組)	- 36 -
12-3-2 ベース B ラス認定番号表 (枠組み)	- 37 -
チェックシート (点検表)	- 38 -

1. 目的

この施工手順は「ベースBモルタル+ベースモルタルB」合計15mm以上の軽量モルタル、胴縁を使用した通気半乾式工法を確実に施工と管理を行うための注意事項をまとめた指針です。この手順書を遵守し、お客様のご要望を得る高品質な外壁に仕上がるように十分注意してください。

2. 用途

「ベースB大壁工法（ベースBラス+ベースモルタルB）」は、木造住宅外壁通気半乾式モルタル工法です

3. 規格・法令

「ベースBモルタル」は国土交通大臣から認定された45分準耐火構造です。

認定番号（例）

QF048BE-0527（軸組）面材なし、

QF045BE-0628（軸組）面材あり、

QF045BE-0544（枠組）通気層の屋内側に面材有、

4. 工法の品質について

住宅瑕疵担保保険の基準との適合性について

モルタルを用いた半乾式工法であり、モルタルはJASS15M-102品質基準準拠です。

使用するラスは、700g/m²以上の異型ラスです。表層補強用グラスファイバーネットは145g/m²となっており、各部材に関しては瑕疵保証のみならず、住宅支援機構要件（旧住宅金融公庫基準）をも満たしております。

防水止水の考え方につきましては以下の通りです。

① 通気胴縁を用いた通気層工法の場合

2次防水ライン 構造躯体ないし面材の上にJIS A 6111 透湿防水シートを張って防水テープ・コーキング等で処理する。

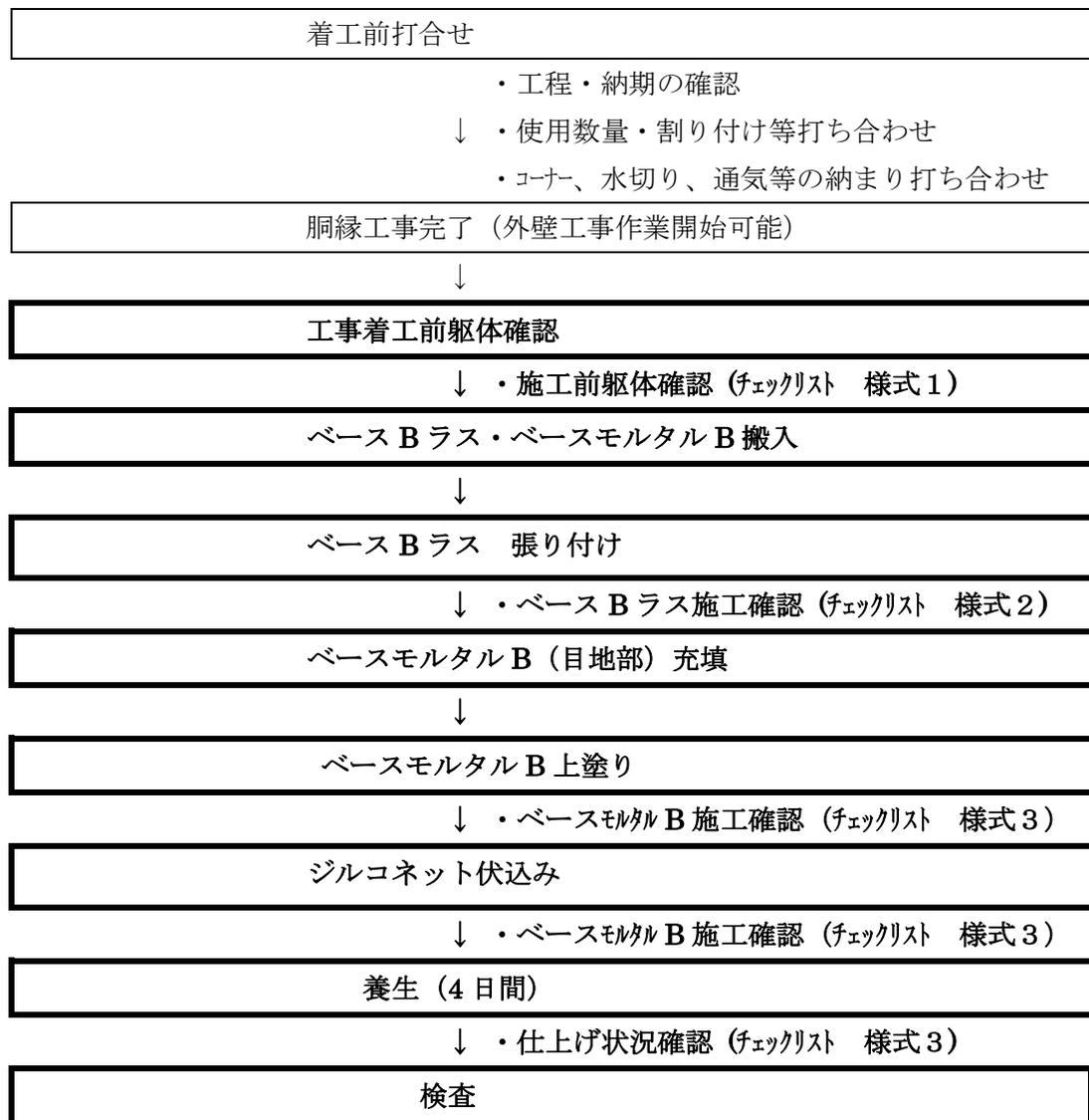
1次防水ライン ベースBラス貼付け、目地詰め、ベースモルタルB全面塗り+コーキング処理（モルタル表層が防水ラインです）

② 通気胴縁を使用せず直貼りで使用する場合

2次防水ライン 構造躯体ないし面材の上にJIS A 6005 アスファルトフェルト 430を張って防水テープ・コーキング等で処理する。

1次防水ライン ベースBラス貼付け、目地詰め、ベースモルタルB全面塗り+コーキング処理（モルタル表層が防水ラインです）

5. 施工フローチャート



6. 検 査

6-① 躯体確認(施工前のチェック事項)

- 1) 躯体の柱、間柱の間隔が 455 mm もしくは 500 mm となっているかどうかの確認。
- 2) 躯体の入隅には添え柱が設置されているかどうかの確認。
- 3) 通気胴縁が柱、間柱にしっかり固定され、455 mm もしくは 500 mm となっているかどうかの確認。
- 4) 通気胴縁の割り付け、方向、ピッチ、巾、厚みの確認。
特にベース B ラス目地部、開口部、配管廻りの通気胴縁には巾 90 mm が取り付けられていることを確認する。
- 5) 胴縁、水切り、庇等の施工が完了しているかどうかの確認。
- 6) 外壁に面材が施工されていない場合は、縦・横胴縁 特に開口部、配管廻りの下地枠材の補強等の取り付けの確認。
- 7) 外壁面材に浮き・段差の大きいところは無いかの確認。
- 8) 透湿防水シートの重ねしろ及び浮き、たるみ、はがれ、やぶれ等の無い事の確認。
- 9) 開口部・設備配管廻り・サッシ廻り・換気扇廻りの防水テープは確実に終わっているか。(防水テスト状況の確認)
- 10) 水切り金物周りの施工及び納まりの確認。(水切りの下に、通気用受材が入っているか等の確認)
- 11) 通気縦胴縁の間に、ファイアーストップ設置や補助胴縁が必要になる場合があります。(監督員の指示による)
- 12) 防虫設備が必要な場合は、その工事が完了していることの確認。
- 13) 必要箇所に足場があることの確認。作業スペース、資材置き場の確認。

6-② ベース B ラス張付け後の確認

- 1) 留め付けテーブルピッチがベース B ラスボード 1 枚につき @120 の確認。
- 2) ベース B ラスの留め付けステーブルの留め忘れがないかどうかの確認。
- 3) ベース B ラスの留めつけステーブルの位置が必ずラスをまたぐように取り付けられているかの確認。
- 4) ベース B ラスボードジョイント部は必ず、ラスの重ねが 約 25～30 上確保されているかの確認。
- 5) ベース B ラスジョイント部の接合がラスの重ねで接合されているかの確認。
(1 方のラスのみになっていないかどうか)
- 6) 縦目地のジョイント部は必ず胴縁上になっているかどうかの確認。

- 7) ベース B ラス端部（ステープル）の固定がされているかの確認。（ボード端部に浮きが発生していないかの確認）
- 8) ベース B ラス目地部のラス及びジルコネットがベース B ラス仕上げ面より浮き出していないかの確認。
- 9) ベース B ラス 面材に著しい割れが無いかの確認。
- 10) ベース B ラス板のラスの重ねの部分が下側の板のラスが上方に重ねられているか。
- 11) 端部切断加工されている板の留め付けはステープルで@120 以下で留め付けられているか。

6-③ ベース B ラス貼りあがり状態の確認及び左官施工後の確認

（開口部の防水工事（シーリング）については、仕上げ方法により異なるので、仕上げに対応する施工とする。）

- 1) 貼り上げ面での平滑状況の確認。
- 2) 目地部からラス及び ジルコネットの突出がないかの確認。
- 3) 目地部にベースモルタル B が充填されボード面の調整がされているかの確認。
- 4) 出隅・入隅・目地など必要箇所（急所）にジルコネットの伏せ込みがされているかの確認。
- 5) 乾燥後の目地部での著しい痩せ、膨らみが無いかの確認。
- 6) ベースモルタル B が所定の厚みで適正に仕上がっているかの確認
（塗厚 約 8mm 以上 板厚との合計で 15 mm以上、）
- 7) 清掃状況の確認。（サッシ、水切り等に目地材、ベースモルタル B の付着等がないか）
- 8) 産業廃棄物、残資材が所定の場所に集積されているかの確認。

7. ベース B 大壁工法 施工手順

7-① ベースBラスの施工手順

- 1) 材料保管・取扱い
 - a) 水平な場所に栈木（3点以上）を敷き込み地盤面より上げて保管してください。

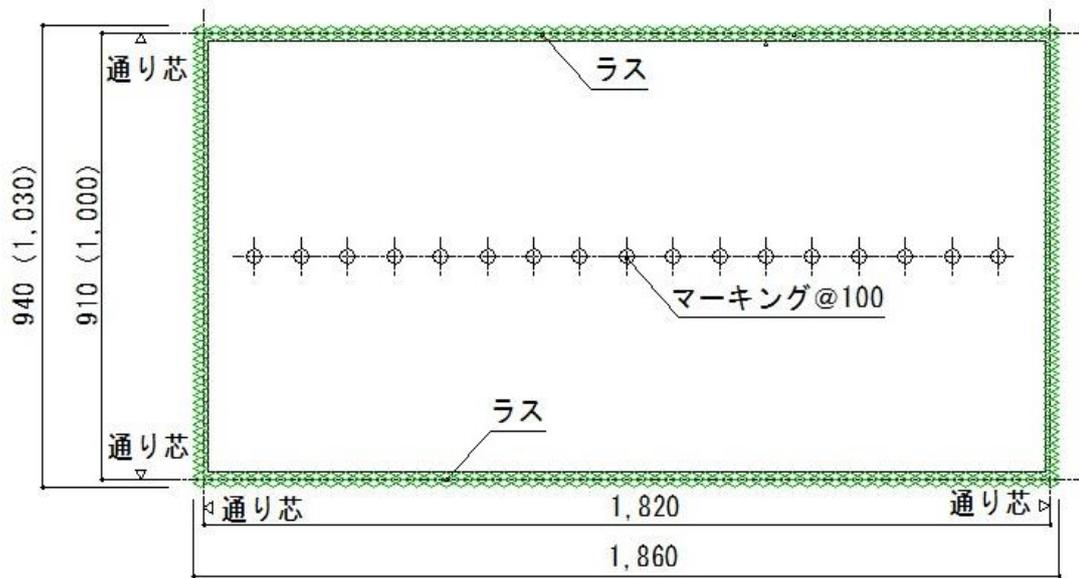
- b) 集積高さは、3 梱包までとしてください。
(1 梱包 30 枚 重量 470kg/梱包)
- c) 段積み集積の際に梱包と梱包の間に栈木を入れられる場合、下段の栈木と同じ個所に栈木を配置してください。
(重量負担の場所が変わると、ベース B ラス板の割れの原因となる為)
- d) 決して材料の上を歩いたり、重量物を置いたりしないでください。
(ベース B ラス板が割れる原因となります。)
- e) ベース B ラスは、四方からラスが出ています、ラスを潰さないように 注意してください。
- f) ベース B ラス板を小運搬し、仮置きをされる際四方から出ていラスが サッシ・水切り等を傷つける恐れがありますので、パッキン等を挟み、他資材を傷付けないように注意してください。



ベース B ラス積み込み状況 (現場保管も同様に 3 段積み)

2) ベース B ラスの貼り施工手順

- a) ベース B ラスボードの芯々納まりの寸法が
尺モジュール：1820×910 メーターモジュール：1820×1000
ラスの外表面から外表面までの製品サイズの寸法は
尺モジュール：1860×940 メーターモジュール：1860×1030



() 内の寸法はメートルモジュール

ベースBラス 寸法図

- b) 板面に丸印（マーキング）がついている方が表面となります。
- c) ベース B ラス板取扱い時に微小なクラックが発生いたしますが、製品自体に問題はありません。
- d) ベース B ラス仮留め完了後、周囲四方のラスをエアータッカーにてステーブルを留め間隔は 120 mm 以下になるように留め付けをしてください。
(ステーブルが必ずラスをまたぐ様に注意してください)
- e) ベース B ラスのジョイントはラスの重なりを 30 mm 以上確保してください。
- f) ベース B ラスのジョイント部で、ラスの跳ね上がりでベース B ラスが仕上げ面より突出しないように注意して下さい。
突出が発生した場合は、ステーブルにて打ち込みをしてください。
(必ずターポリン紙を取り出して広げて貼り付けてください。)
- g) 最下段ベース B ラスは、水切りより 10~15 mm ほど開けてラスの端部となるように配置してください。
※電飾反応を防ぐため、水切や、サッシ枠にラスが接触しないようにラスを配置して下さい。
- h) ベース B ラス板加工は作業台の上に緩衝材(スタイロフォーム等)を敷きその上で加工作業を行ってください。

- i) ベースBラス板の切断は、チップソウ、タイル切断刃を使用してください。
*推奨工具 集塵機付き電動丸ノコ(チップソウ、タイル切断用刃)
- j) 加工したベースBラス板を貼り付ける場合は、ベースBラス板上からステーブルにて留め付け、留め付け間隔は周囲 120 mm以下としてください。
- k) サッシ廻り及びベースBラスの板の加工が必要な個所は開口部より 3～8 mm以上開けて切断加工してください。
- l) 開口部でのベースBラスの加工の際は最小幅(セメント板面) 50 mm程度を目安としてください。
(50 mm以下の幅で加工が必要な際は、ラスを貼りベースモルタルBを充填してください。
- m) ベースBラス施工完了後は、ベースBラスの浮き、目地部等を重点的にしてください。不具合の発生箇所はステーブル補強等を施してください。
- n) 廃棄物は所定の位置に保管し、清掃・片付けをしてください。
- o) 各所の納まりについては、参考例を参照してください。



ベースBラス加工状況



ベースBラス留付状況

接合目地状況



7-②目地の施工手順、上塗りの施工手順

- 1) 材料保管・取扱い（目地及び上塗）
 - a) 目地詰め、及び、上塗りは、ベースモルタルBを使用してください。
 - b) 本品は厳重な品質管理のもと、工場にて製造された既調合品です。
 - c) 製品の保管は湿気の少ない場所で、パレット等を敷き床面より離して保管してください。
 - d) 強風や直射日光等による急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をしてください。
 - e) 既調合品の為、指定材料以外のものを練り混ぜないで下さい。なお、混練りには水道水等の清水を使用してください
 - f) 混練した材料は夏季1時間、冬季2時間以内に使用してください。練り足や加水して練戻しをしないでください。
 - g) 気温が5℃以下の施工時は強度発現までの凍結防止措置を施してください。
 - h) 凍結防止剤を使用する場合は監理者の承認を受けてください。

- i) 製品の製造年月日を確認し、製造から6か月以上経過した製品は使用しないでください。また開封された製品はできるだけ早めに使い切ってください。
- j) 悪天候(降雨、降雪等)またはその恐れがある場合は施工を避けてください。

2) 標準配合 (1袋あたり目地充填、及び上塗り 約3㎡/袋)

ベースモルタルB	清水
1袋 (25kg)	約9ℓ

3) 混練り

ミキサーに「ベースモルタルB」を入れ、20～30秒 空練をしてから規定水量の清水を徐々に加えて混練をしてください。(目安としては 3分以上とする。)

4) 目地充填の施工

ベースモルタルBを目地部にしっかり充填されるようにコテ圧を充分にかけて目地隅部に塗り付けてください

5) 上塗りの施工 (目地と上塗りを同時に施工しないでください。)

ジョイント目地つぶし及び各定木張りを行い、ベースBラスの厚み(約7mm) + 上塗り(8mm以上)のベースモルタルBの塗り厚で、合計15mm以上に施工して下さい。

作業性においてベースモルタルBを上塗り施工中、著しく水引が早く感じられる時は、水打ち又はシーラー塗布をして下さい。

5) 左官工事完了後、サッシ・水切り等にモルタル付着が無いかを確認、清掃を行ってください。



目地下詰め状況



ネット伏せ込み状況

7-③ジルコンネットS 伏せ込み

- 1) 予め準備してあるネットを張り易い程度にカットして使用します。
- 2) ネット伏せ込みは上塗りベースモルタルBを平滑に仕上げ、仕上げ面が乾かない内に伏せ込みを行います。
- 3) ネットの重ねしろは 50 mm以上とする。
- 4) ネット伏せ込みの際は、タワミ、フクレが生じないように伏せ込むこと。



ベースモルタルB 塗上がり状況



地域	静岡県T邸
工法	通気工法
竣工日	2010年1月
施工壁面積	235㎡
ベースBラス施工	田中サイディング
左官工事	望月晴男左官
仕上	ジェラカペンアート コシ波アクリル
施工店	藤和泉屋建材店

ベースBラス施工完了

8. 使用材料及び推奨工具



ベースBラス

モジュールサイズ (910×1820)
(1000×1820)

製品サイズ (940×1860)
(1030×1860)

厚さ t=7mm

重量 15kg/枚

ベースモルタルB

重量 25kg/袋

目地詰 及び 表面仕上
(8mm 以上塗厚) 3㎡/袋



ジルコネット

長さ 50m/巻

重量 7.3kg/巻

幅 1m

メッシュ幅 5mm×5mm



ステープル

肩幅 10mm

足長さ 25mm

目安 ベースBラス1枚当たり
約100発使用



集塵機付き丸鋸

チップソー

タイル用切断刃



エアータッカー
1025Mステップラー

9. 安全対策と応急処置

9-① 安全対策

- 1) 作業時(ベース B ラスの切断、張り付け、運搬、目地・ベースモルタル B 塗り付け)は適切な保護具(ヘルメット、安全带、保護メガネ、集塵マスク、手袋)を使用してください。
- 2) ベース B ラスからラスが出ているので保管場所は通路等の歩行往来がある場所を避けてください。(ひっかける恐れがあります)
- 3) ベース B ラスを切断の際は、集塵機を利用し、周囲への飛散に注意してください。
- 4) 目地、ベースモルタル B の取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないように注意ください。
- 5) 作業終了時は、製品の雨養生(ブルーシートで被う等)を施してください。
- 6) 建物壁面への立て掛けはやめてください。
(端部よりラスが突出しているため、建物に傷をつける恐れがある為)
- 7) 作業所のルールを遵守し、わからないことは勝手な判断をせず監督員に相談をしてください。

9-② 応急処置

- 1) モルタル製品及びベース B ラスの飛散が目に入った場合は直ちに清浄な水で洗い流し、速やかに専門医の治療を受けてください。
- 2) 粉じん等を吸い込み体調が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて専門医の診断を受けてください。
- 3) 製品が飛散した場合は、速やかに清掃をしてください。

10. 産業廃棄物の取り扱い

- 1) 張り付け作業後に端材になったラスネット板は『指定副産物』以外の建築副産物であり、「産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、適切な処理をしてください。
- 2) 産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して委託し、関係法令を遵守して適切に処理してください。
- 3) 包装材を廃棄する場合は内容物を完全に分別した後、産業廃棄物として都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託してください。
- 4) ベースモルタル B 等の練り混ぜ材は硬化させてから産業廃棄物として適切な処置をしてください。また、洗浄水の排出は水質汚濁防止法等に注意してください。

11. 注意事項及び禁止事項

- 1) ベース B モルタル+ベースモルタル B 工法は木造住宅に対応している為、鉄骨造等他の構造には使用しないでください。
- 2) ベース B ラスにエアコン、架台、照明器具などを直接取り付けないでください。取り付けられる際は、必ず下地補強を行うか、躯体に支持するように取り付けてください。
- 3) ベース B ラス+ベースモルタル B 工法は、ジョイント部をラスで重ねて固定することで強固な壁を実現しております、必ずベース B ラスのジョイント部はラス同士の緊結ができている事の確認をお願いします。
- 4) ベースモルタル B が水切りやサッシに付着すると取れなくなる場合がありますので、必ず施工前に養生をしていただくようにお願いします。
- 5) ベースモルタル B で表面処理の施工前及び完了後にサッシ回り等の捨てコーキング（1次防水）を行う場合がありますが、必ず仕上げ材との付着を考慮してコーキング材を選定してください。
- 6) 一度開封されたベースモルタル B はできるだけ早いうちに使用していただくようにお願いします。（開封後 長期にわたり使用しないと、塊ができたり、仕上げに影響する恐れがあります。）
- 7) ベース B ラスの施工時及び施工完了後に盤面に亀甲状の毛細亀裂が発生することがありますが、表面にジルコネットで全面補強している為、製品自体には問題ございません。
- 8) ベース B ラス自体に防水性能はございませんので、防水シート等の2次防水表面仕上げ材及びコーキング(1次防水)等の防水処理を確実にしてください。

ベース B 大壁工法 施工図面及び参考例

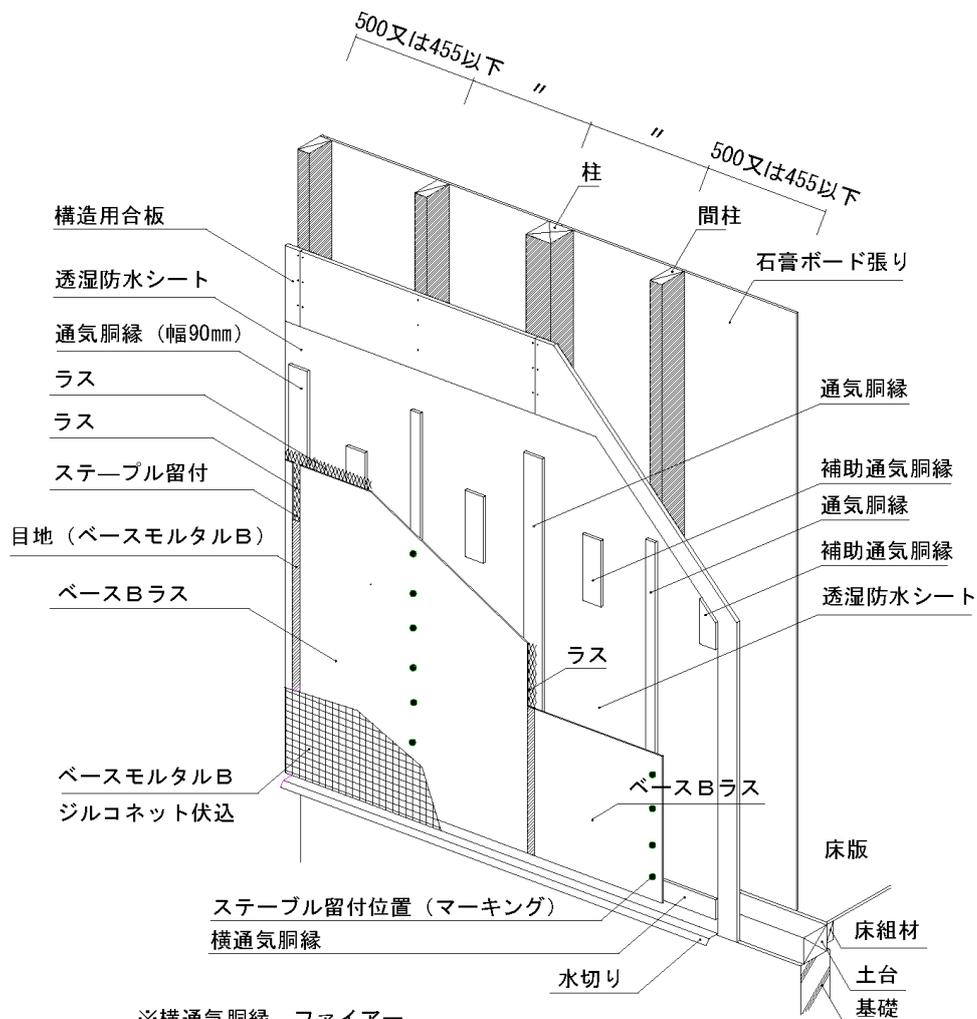
1 2. 施工図面及び参考例

★説明事項★

- 1) この図面は通気縦胴縁、柱の大きさ、構造用面材の厚みにより寸法が変わることがあるので、事前に施工業者及び担当者と打ち合わせ確認して下さい。
- 2) **面材のある場合**の納まり図面は「12-1-1」～「12-1-16」の16枚。
面材のない場合の納まり図面は「12-2-1」～「12-2-3」の3枚ですが、この3枚以外の面材のない場合の納まりは「12-1-4」～「12-1-16」の図面に準じて施工して下さい。

12-1-1 軸組から仕上げまでの納まり（面材がある場合）

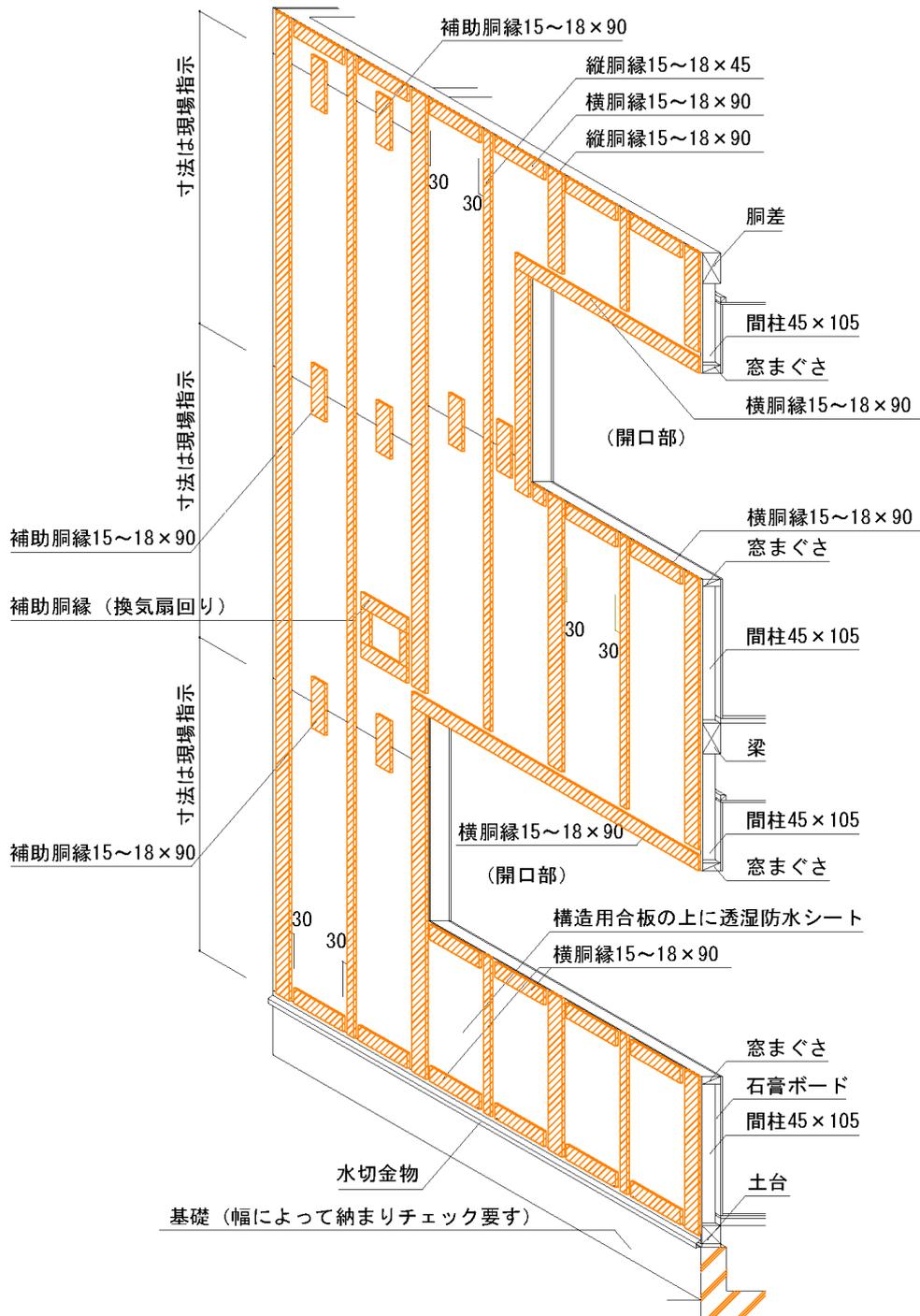
※補助通気胴縁を用いる場合の納まりの一例



※横通気胴縁、ファイアー
ストップ等は監督員と相談
の上決定してください

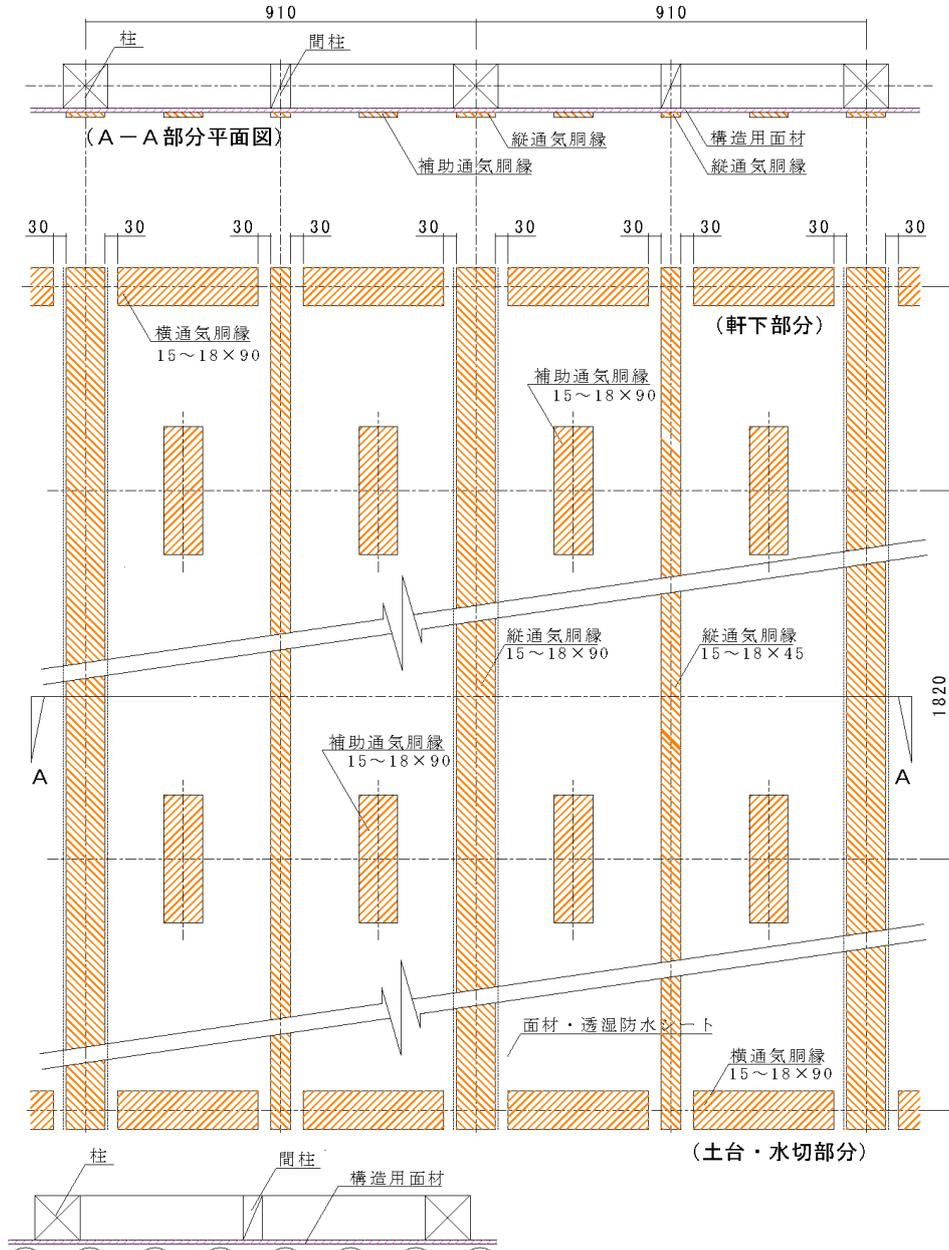
12-1-2 通気胴縁の設置位置図

※補助通気胴縁を用いる場合の納まりの一例



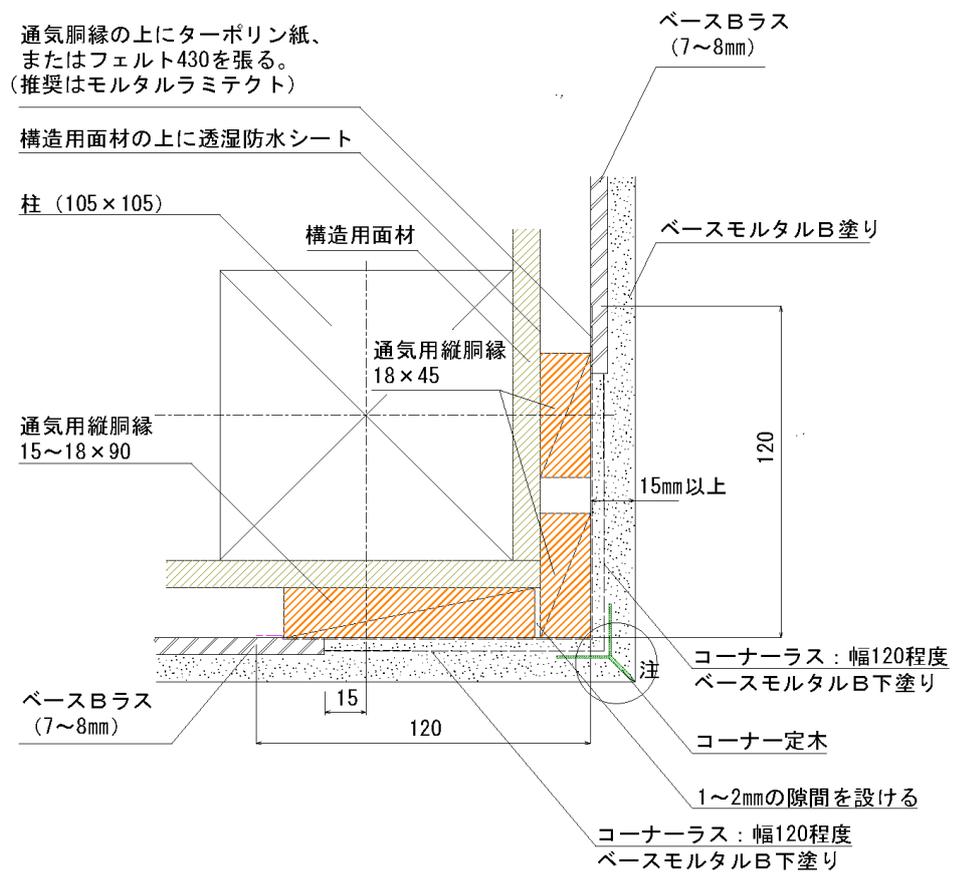
12-1-3 面材を用いる場合の胴縁張付け図

※補助通気胴縁を用いる場合の納まりの一例



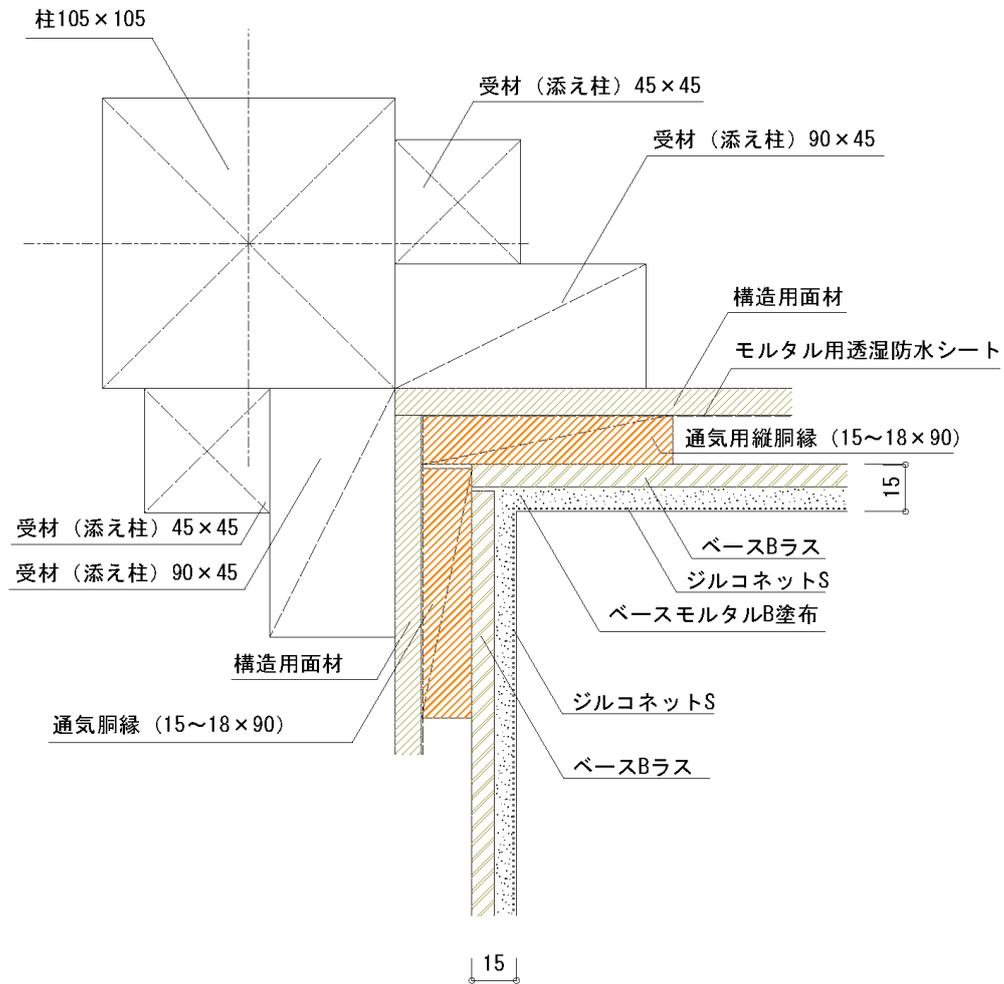
柱部の横胴縁の空きを設けない場合、エアホール胴縁による代替も可

12-1-5 出隅の（通気胴縁）納まり



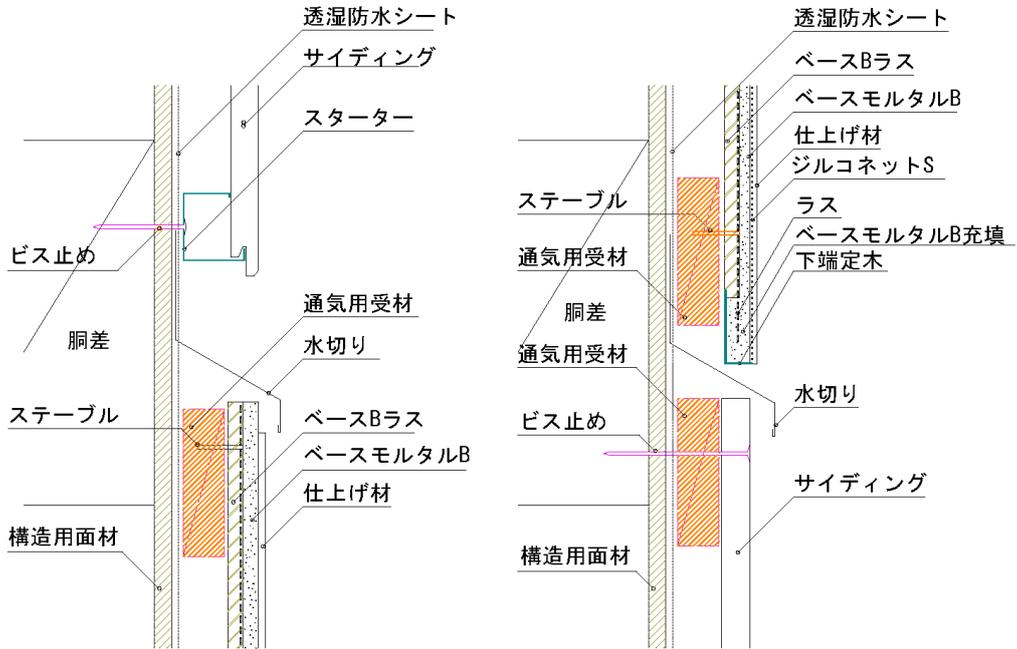
- 注
- 1) 出隅部はベースBラスを固定する前にターポリン紙、またはフェルト430（幅240程度）を振り分けて張る。（推奨はモルタルラミテクト）
 - 2) その上にラス（一片120×120程度）をステーブルにて固定させる。

12-1-6 入隅の納まり詳細参考図

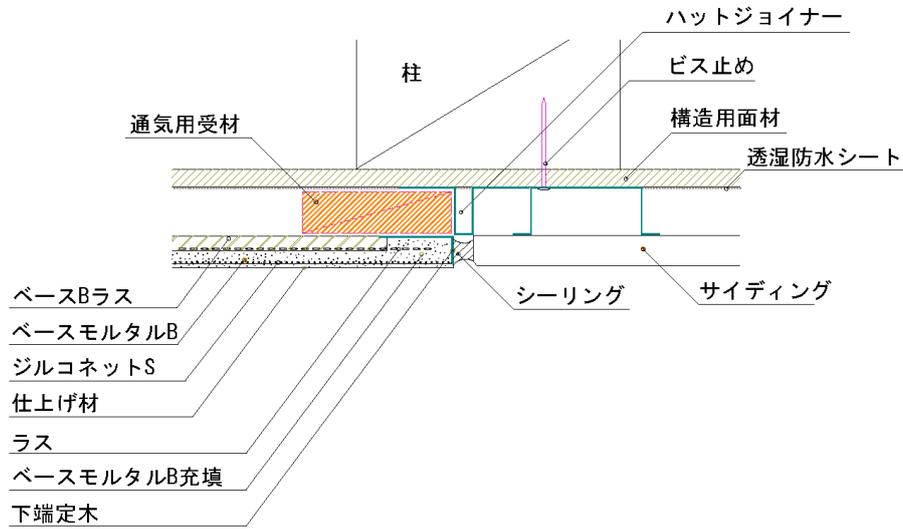


- 1) 入隅部はベースBラスを固定する前にモルタル用透湿防水シート、ターポリン紙、またはフェルト430を幅240mm程度に振り分けて張る。
- 2) その上にベースBラスを付き合わせて張る。
- 3) 仕上げにベースモルタルBを塗る。

12-1-7 サイディングとの併用時の納まり例



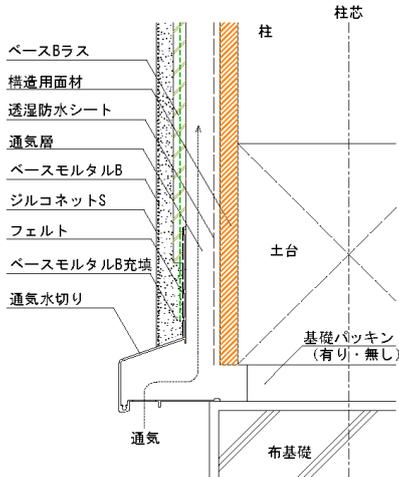
★サイディングの下側にベースBラスを施工する場合 ★サイディングの上側にベースBラスを施工する場合



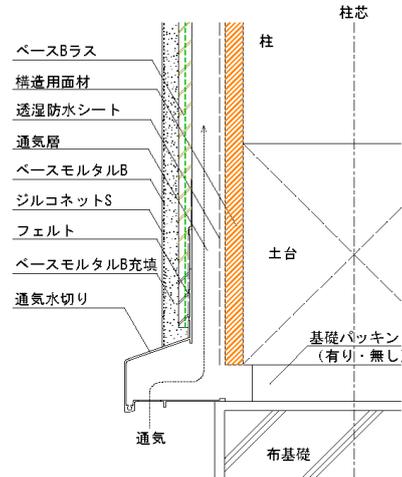
★サイディングの横にベースBラスを施工する場合

12-1-8 土台廻りの納まり例

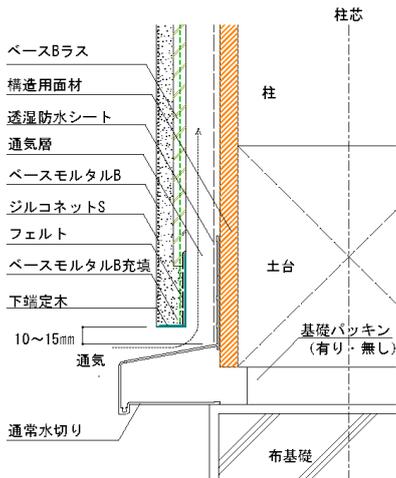
★1. 通気水切金物の場合



★2. 通気水切金物・ボード下端カットの場合

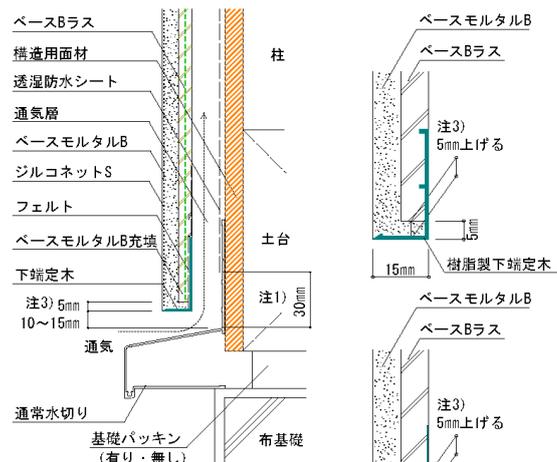


★3. 通常水切金物+下端定木の場合



※各メーカーにより水切りは納まりが異なるため、使用する製品の納まりを確認の上で施工してください。

★4. 通常水切金物+下端定木+ボード下端カットの場合



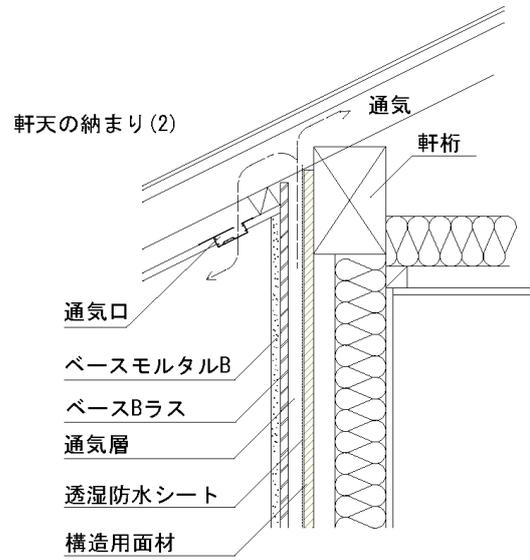
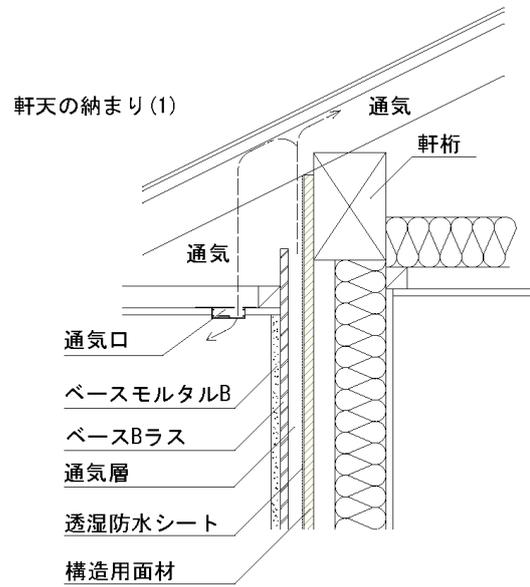
- 注
- 1) 透湿防水シートは水切に覆うように張るが、水切下より30mm程度上げて下さい。
 - 2) 下端定木は塩ビ製、または板金製を推奨します。下端定木は通気用受材に直接取り付け付けて下さい。
 - 3) 下端定木の上に直接ベースBラスをのせるのではなく、下端5mm程度あけて張って下さい。

※施工時は水切りの養生を行って下さい。

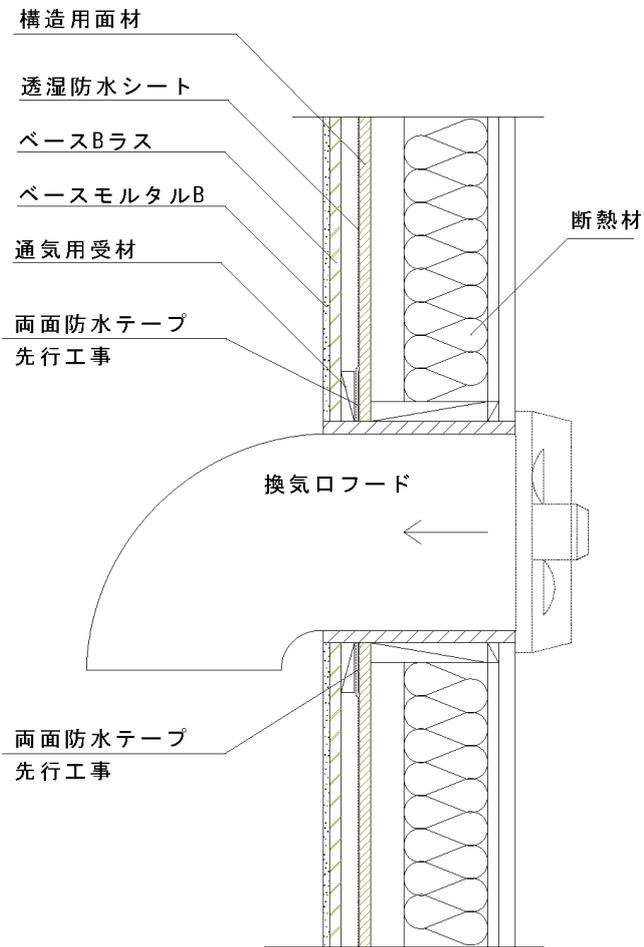
※施工時は水切りにラス部を接触させないで下さい。

※無機系仕上げ材の場合は★3、★4の仕様のように入水切りに通気の開口を設ける仕様を推奨します。

12-1-9 軒天の納まり例

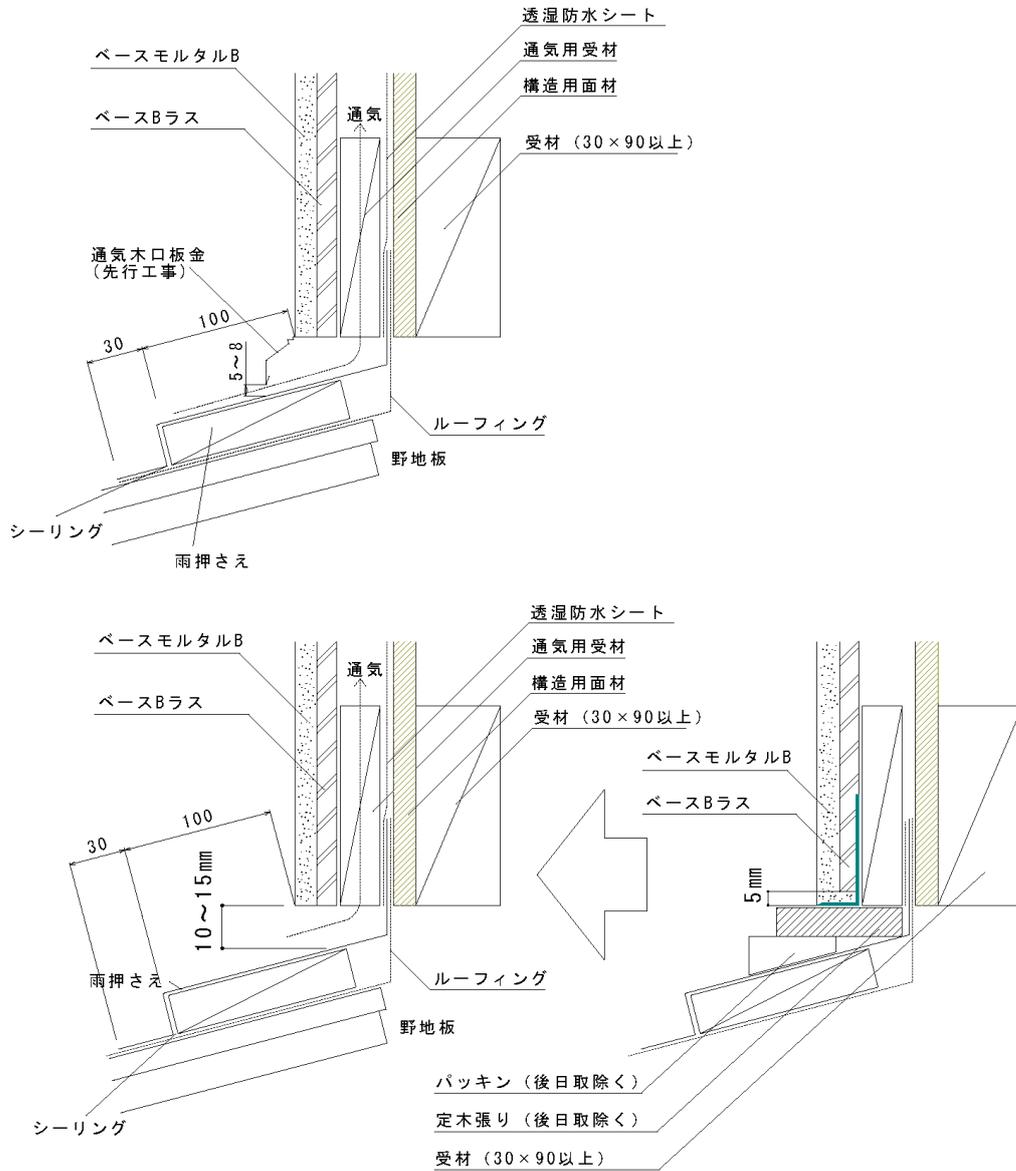


12-1-10 換気扇廻りの納まり

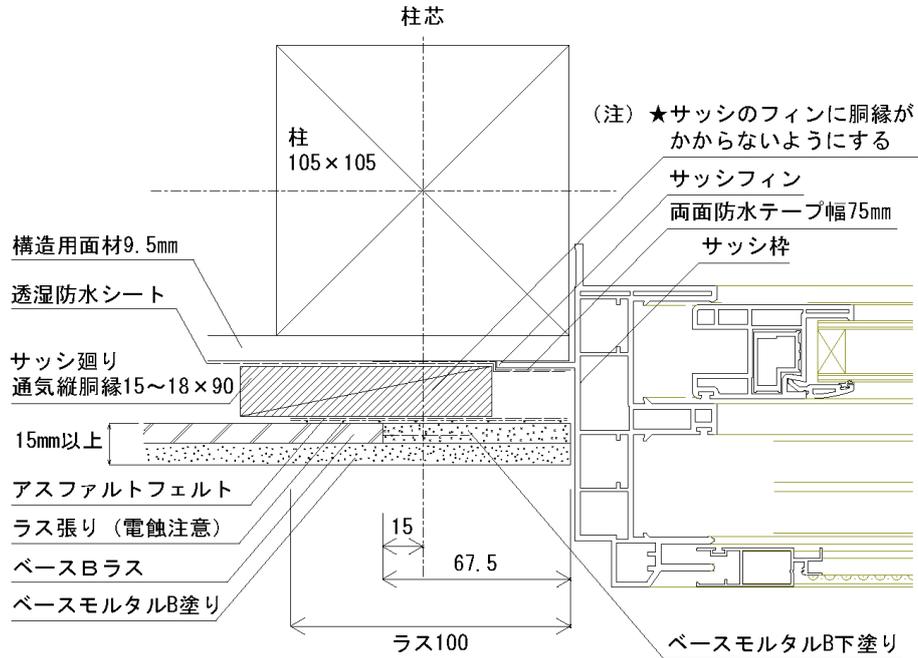


※貫通部は外径より5mm程度大きく開口を設ける。

12-1-11 下屋部の納まりー通気木口板金後付の場合



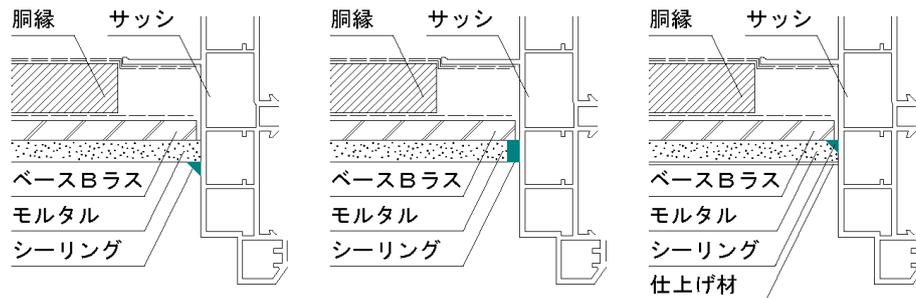
12-1-12 サッシ廻りの納まり例



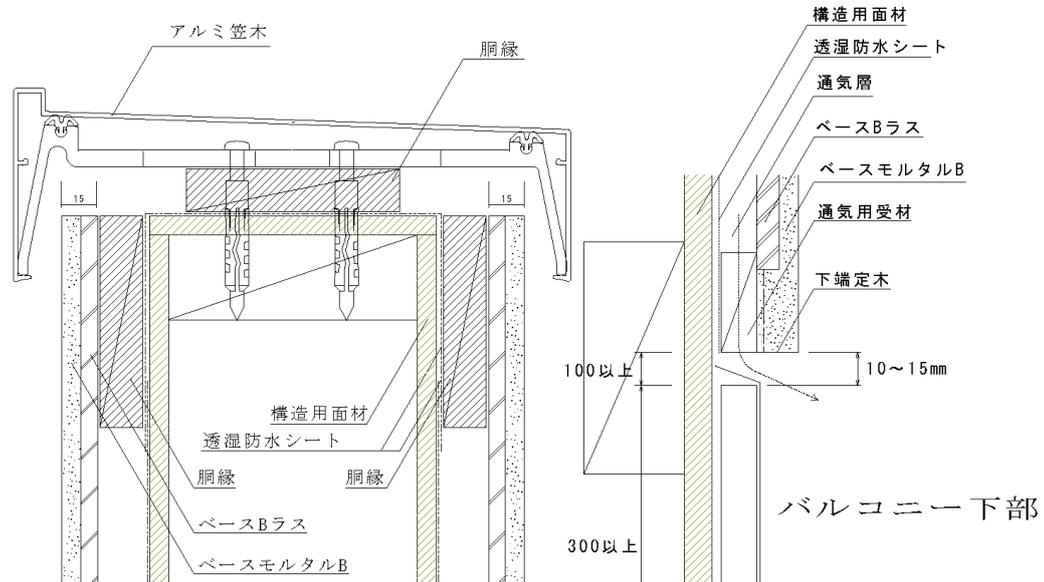
注

- 1) 通気用縦胴縁 (90幅) にモルタル用透湿防水シートもしくはアスファルトフェルト張り、その上にラス張り (サッシにラス部を接触させないようにしてください)
- 2) ベースBラスを固定、ベースモルタルB (幅67.5mm) を下塗り (厚7~8mm)
- 3) 仕上にベースモルタルBを塗る

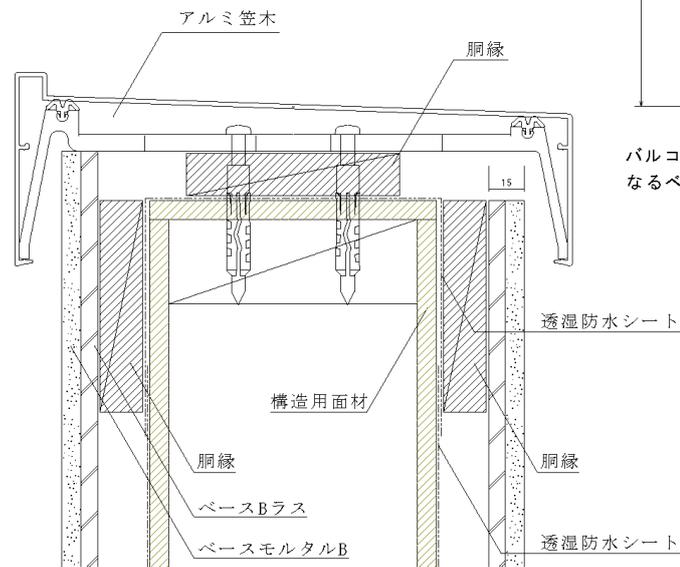
★サッシ廻りのシーリングの例



12-1-13 バルコニーの納まり例



例1



例2

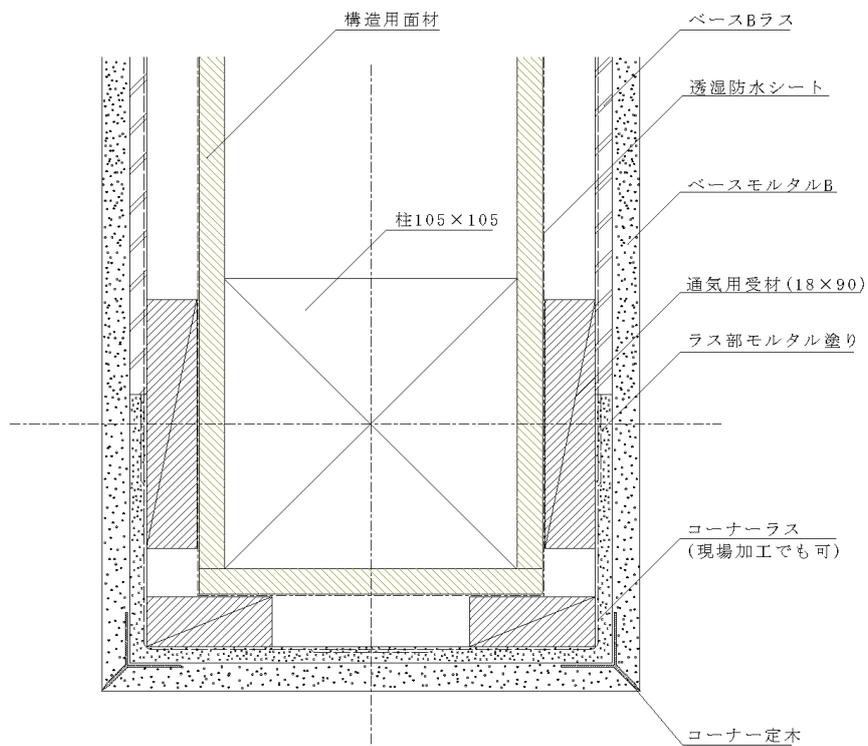
注) バルコニーの高さにより納め方が変わります
 担当者と打ち合わせの上、施工して下さい。

バルコニーの内側には水切金物を
 なるべく使わないようにして下さい。

※施工中は雨水の流入を防ぐために上部を養生して下さい。

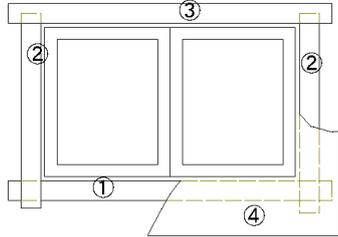
※通気の取り方は管理者と相談、笠置の施工方法は各メーカーの仕様書に従って下さい。

12-1-14 袖壁部の納まり



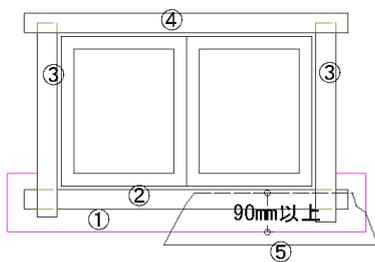
12-1-15 サッシ廻りの防水納まり

[四方防水テープ工法]



- 両面防水テープを
①→②→③
④防水シートを水下から張り上げる
(両面防水テープに密着させる)

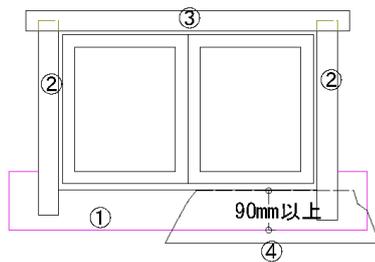
[先張り防水シート+四方防水テープ工法]



- ①先張り防水シート
両面防水テープを②→③→④
⑤防水シートを先張り防水シートの内側に
差込み、水下から張り上げる。
※サッシ釘打ちフィンの最下部手前まで
上下重ね90mm以上

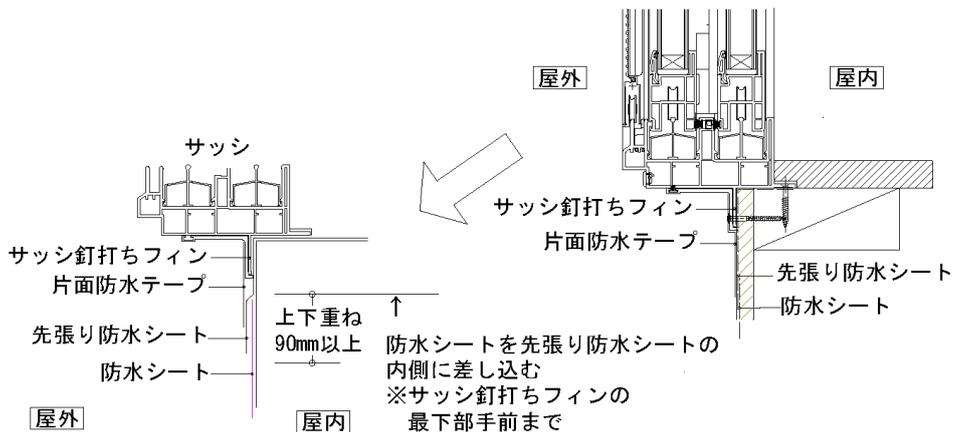
先張り防水シートは「横方向伸ばし」
で表記、「縦方向伸ばし」でも可。

[先張り防水シート+三方防水テープ工法]



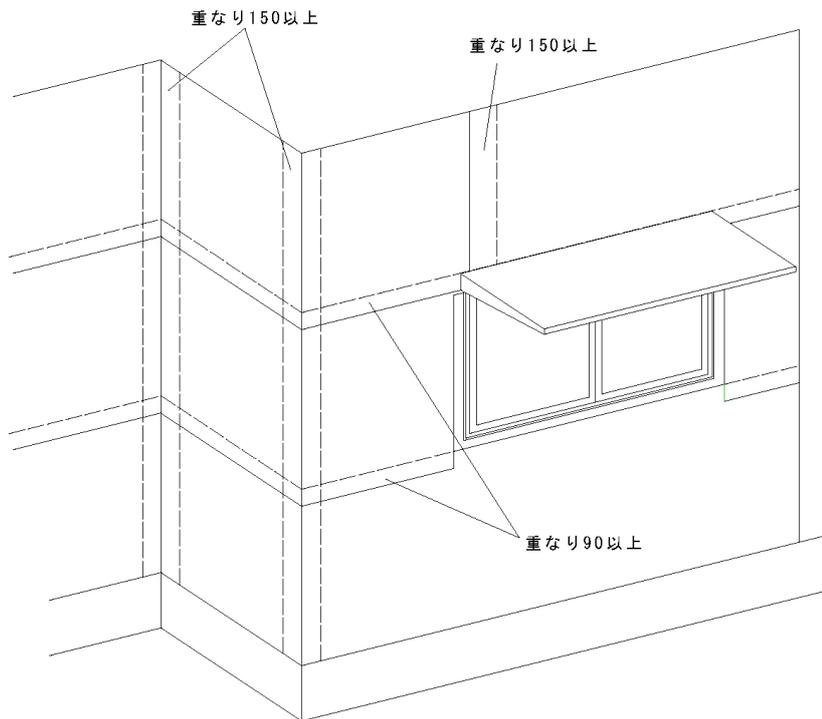
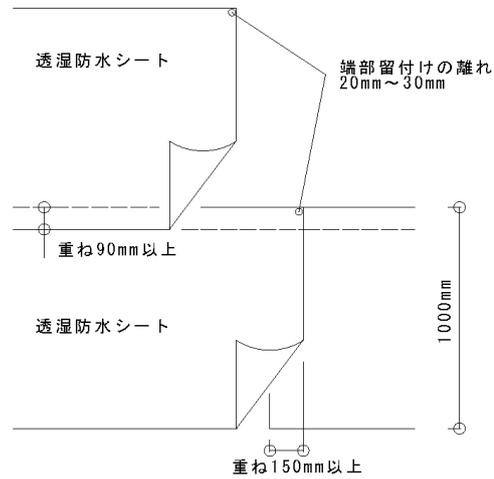
- ①先張り防水シート
両面防水テープを②→③
④防水シートを先張り防水シートの内側に
差込み、水下から張り上げる。
※サッシ釘打ちフィン最下部手前まで
上下重ね90mm以上

先張り防水シートは「横方向伸ばし」
で表記、「縦方向伸ばし」でも可。



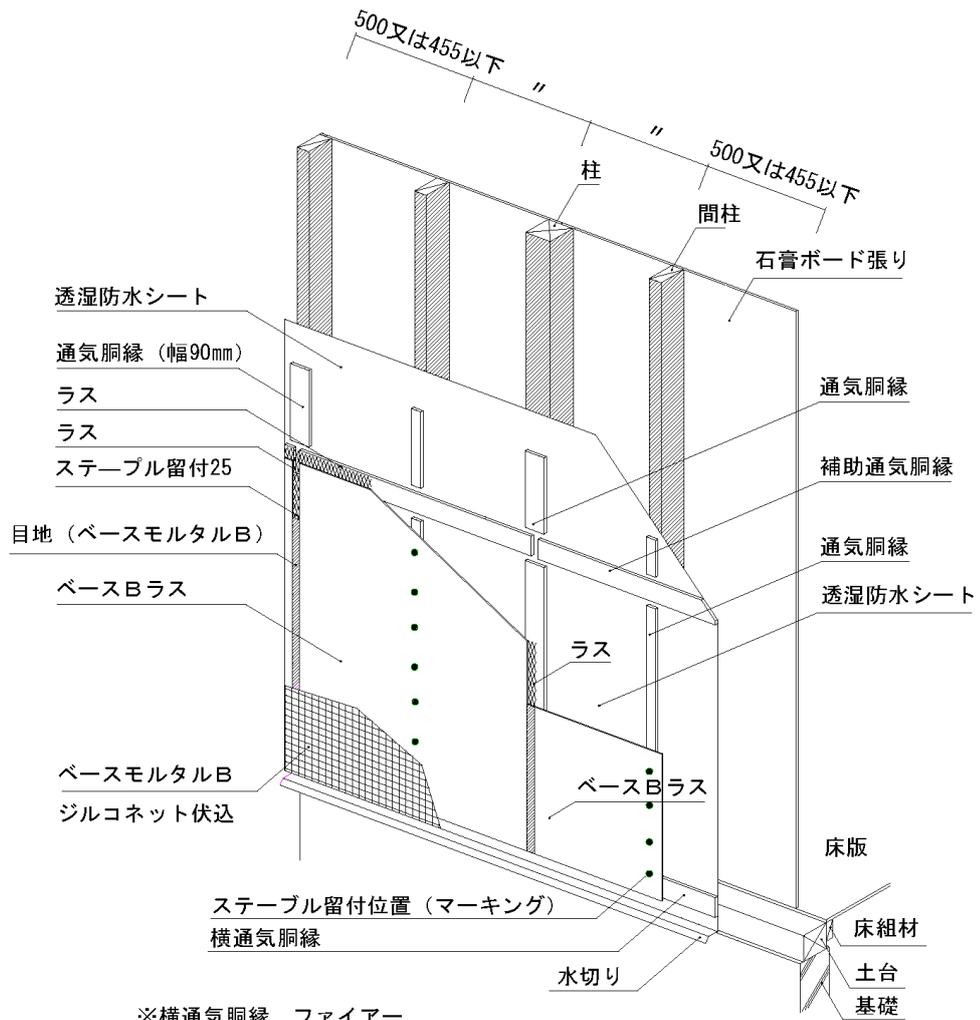
12-1-16 透湿防水シートの納まり

※縦張りも可（重なりは150mm以上としてください。）



12-2-1 軸組から仕上げまでの納まり（面材のない場合）

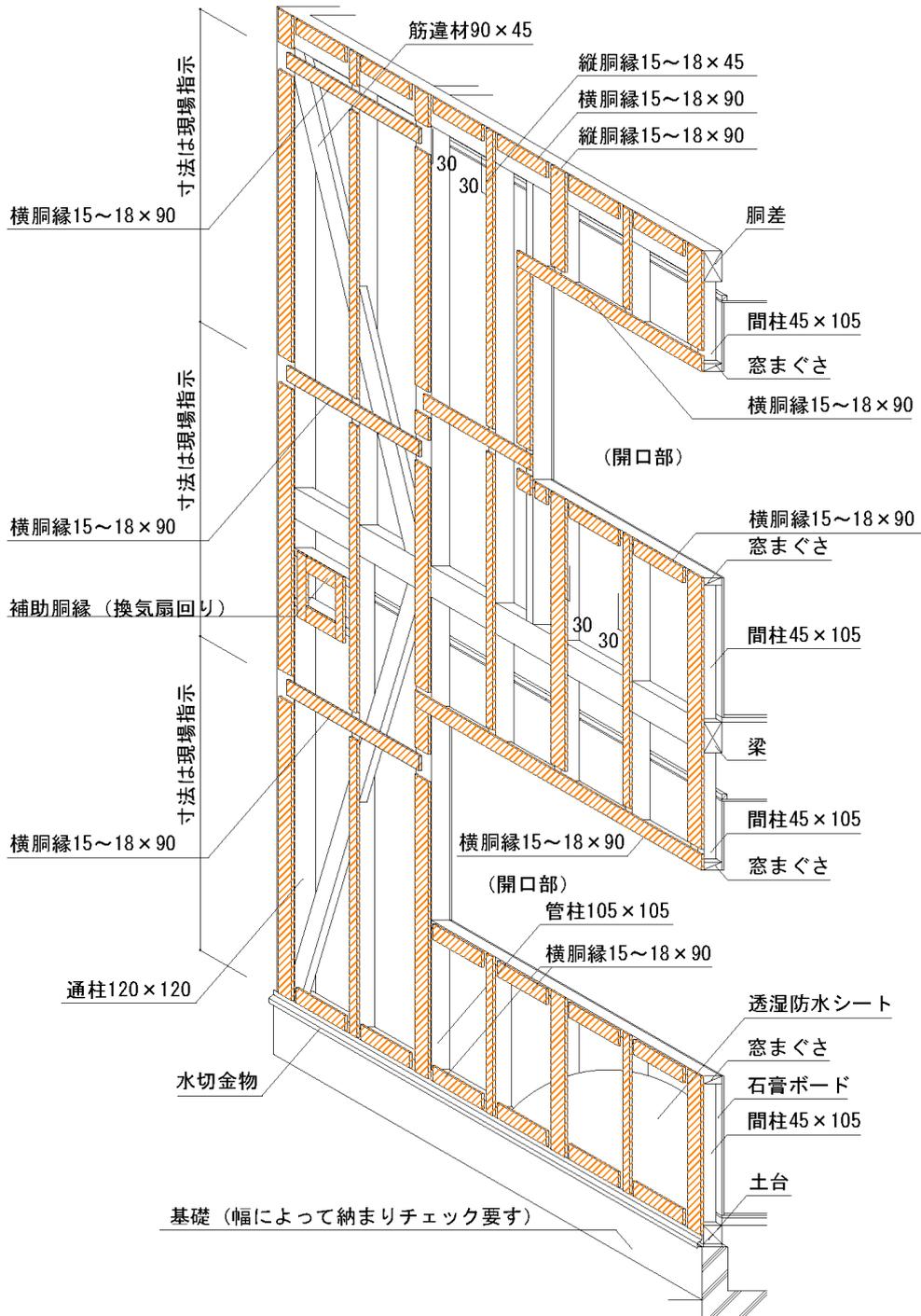
※補助通気胴縁を用いる場合の納まりの一例



※横通気胴縁、ファイアー
ストップ等は監督員と相談
の上決定してください

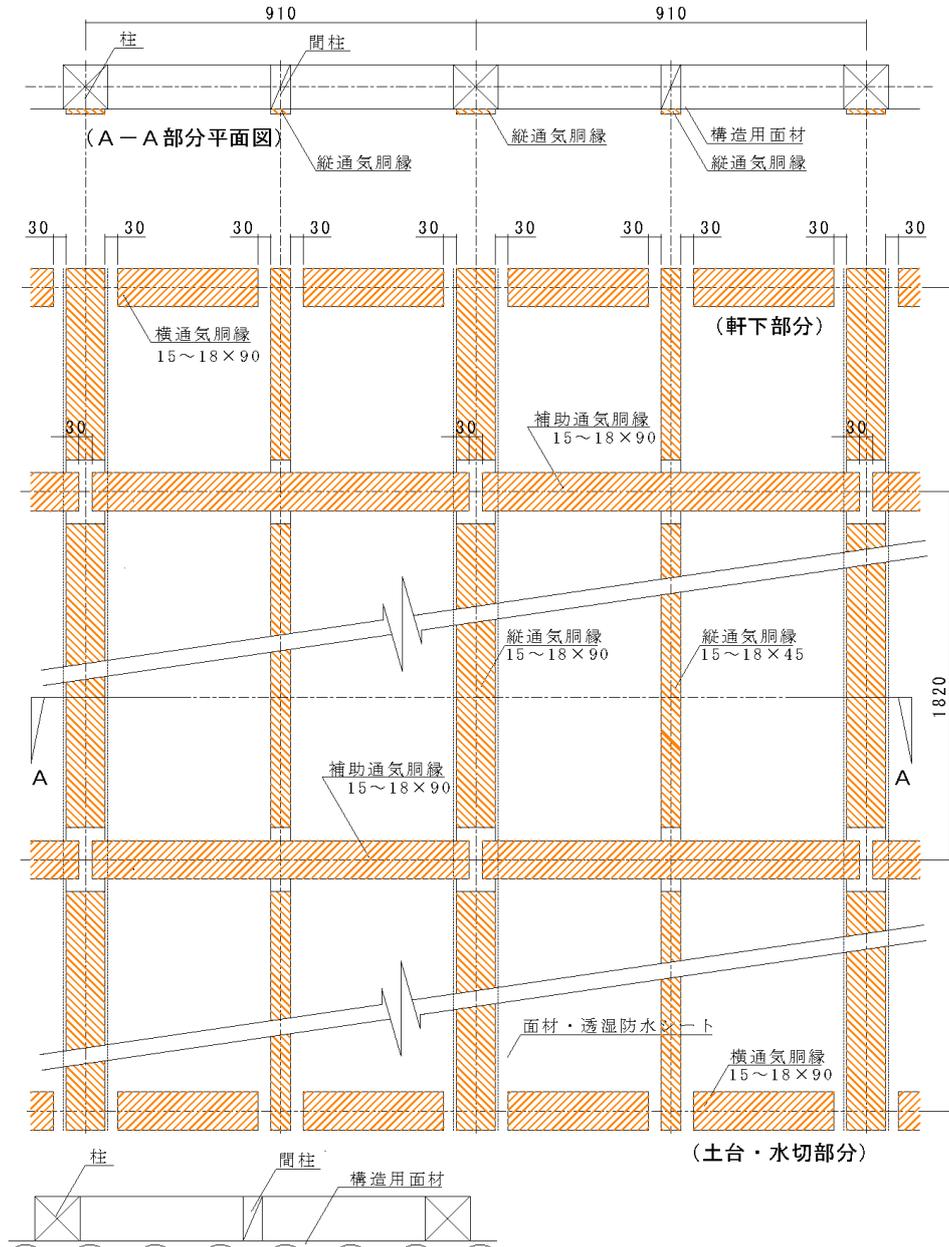
12-2-2 通気胴縁の設置位置図（面材のない場合）

※補助胴縁を用いる場合の納まりの一例



12-2-3 面材無しの場合の胴縁張付け図

※補助通気胴縁を用いる場合の納まりの一例



柱部の横胴縁の空きを設けない場合、エアホール胴縁による代替も可

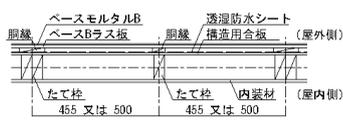
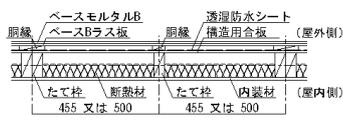
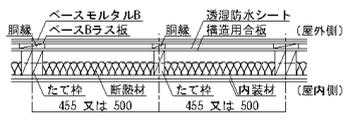
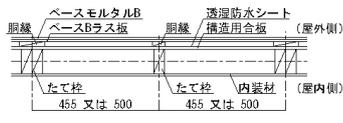
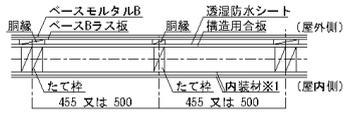
12-3-1 ベースBラス認定番号表（軸組）

認定番号表		工法	面材種類	断熱材有無	断面図	SCALE : 1/20
PC030BE-1476	防火30分	軸組	無	無		
PC030BE-1477	防火30分	軸組	木質系ボード	無		
PC030BE-1484	防火30分	軸組	無	有		
PC030BE-1485	防火30分	軸組	木質系ボード	有		
QF045BE-0527	準耐火45分	軸組	無	有		
QF045BE-0528	準耐火45分	軸組	木質系ボード	有		
PC030BE-9192	防火30分	軸組	構造用合版			
QF045BE-9211	準耐火45分	軸組	構造用合版			

(軸組) 木質系ボード：構造用合版、構造用パネル、小幅板、パーティクルボード、シーリングボード
 断熱材：グラスウール、またはロックウール ※1 内装材は別仕様あり。
 上記認定番号以外もありますので、当てはまらない場合はお問い合わせ下さい

12-3-2 ベースBラス認定番号表（枠組み）

3-02. ベースBラス認定番号表（枠組）

認定番号表		工法	面材種類	断熱材有無	断面図	SCALE : 1/20
PC030BE-1551	防火30分	枠組	構造用合板	無		
PC030BE-1557	防火30分	枠組	構造用合板	有		
QF045BE-0544	準耐火45分	枠組	構造用合板	有		
PC030BE-9192	防火30分	枠組	構造用合板	無		
QF045BE-9211	準耐火45分	枠組	構造用合板	無		
<p>（枠組） 構造用合板 断熱材：グラスウール、またはロックウール ※1 内装材は別仕様あり。 上記認定番号以外もありますので、当てはまらない場合はお問い合わせ下さい</p>						

チェックシート（点検表）

《ベース B 大壁工法点検表》

承認	確認者
印 /	印 /

(1) 着工前確認

施主名		点検日	平成 年 月 日
工事場所		施工期間	平成 年 月 日～ 平成 年 月 日
施工数量 () m ²		設計事務所又は 元請負先	
		施工業者	

検査項目	点検検査確認事項		結果 ○ ×	処置 備考へ
前工事の確認	先行工事	庇、サッシ、水切りなどの取り付けが完了しているか。		
	躯体柱の確認	柱、間柱のピッチが 455 もしくは 500 となっているか。		
	躯体入隅部	入隅となる部分の躯体柱に添え柱が取り付けられているか。		
	軒先破風部	すべて完了しているか		
	防水テープ	サッシ、配管周りに防水テープが取り付けられているか。 (防水処理が施されているか)		
	透湿防水シート	たるみ、破れなく取り付けられているか。		
		重ね、コーナー納まりなどが適正に処理されているか。		
	通気胴縁	ジョイント部には必ず幅 90 の胴縁が使用され、割り付けよく取り付けられているか。		
		開口部、配管、配線回りに補助胴縁が取り付けられているか。		
		軒取り合い部に補助胴縁が取り付けられているか。		
		胴縁の取り付けピッチが 455 もしくは 500 となっているか。		
	作業環境	胴縁が強固に取り付けられているか。		
		使用されている胴縁は防虫防腐処理がされているか。		
		通りよく、不陸なく取り付けられているか。		
	作業必要か所に適正な仮設備があるか。			
	作業スペース、資材置き場、廃棄物保管場所が確保されているか。			
備考	● 是正内容 (結果×の場合記入)	● 処置方法の指示及び改善		
			承認 印	/

《ベースB大壁工法点検表》

承認	確認者
印 /	印 /

(2) ベースBラス張り付け工事

業者名			点検日	平成	年	月	日
使用メーカー名	ベースBラス		ステープル針 1025MDS				
数量	() m ² () 枚		2,000 発/箱 () 箱				

点検項目	点検検査確認事項		結果 ○ ×	処置 備考へ
ベースBラス 張り付け () 縦張り () 横張り ○を入れてください	ベースBラス張り付け ① ジョイント部確認 ② 補強確認 ③ 作業後の確認	ジョイント部が必ず胴縁上になっているか。		
		留付けステープルの留付忘れがなく@120以下となっているか。		
		留付けステープルが必ずラスをまたぐ様取り付けられているか。		
		ジョイント部のラスの重ねしろが1目以上となっているか。		
		ジョイント部は必ずラスの重ねで取り付けられているか。(1方だけのラスになっていないか。)		
		ジョイント部のラスがベースBラス表面より突出していないか。		
		板面に大きなクラック、欠けは発生していないか。		
		ベースBラス中央部のマーカーステープル留め付けされているか。		
		ベースBラス四隅及びボード端部が浮かないか。 (浮がある場合はステープルで補強されているか)		
		作業場所の清掃状況は良いか。		
	資材、産業廃棄物は分別されているか。			

備考	● 是正内容 (結果×の場合記入)	● 処置方法の指示及び改善

	承認 印	/
--	---------	---

《ベース B 大壁工法点検表》

様式-3

承認	確認者
(印) /	(印) /

(3) 左官工事

左官業者名		点検日	平成 年 月 日
使用メーカー名	ベースモルタル B	ジルコネット 1m 幅	
数 量	() 袋	50m 巻 () 巻	

検査項目	点検検査確認事項	結果 ○ ×	処 置 備考へ
ベースモルタル B の 塗り付け	ベースモルタル B 練り混ぜ	所定材料のみの混練となっているか。	
		3分以上の空練を行っているか	
	目地詰め	目地は十分に充填されているか	
		ジョイント部からラス等の突出がないか。	
		ジョイント部の段差をベースモルタル B で整正されているか。	
		乾燥後に著しい痩せ、膨らみがないか。	
	全面しごき	下地仕上げ面が平滑に押えられているか。	
		塗厚がベースBラス上 8mm 以上塗り付けられているか。	
		クラック等が発生していないか。	
	片づけ	水切り、サッシ等の養生が剥がされているか。	
	作業場所及び加工場所が片づけられているか。		
	資材、廃棄物の分別、搬出ができていないか。		
備考	● 是正内容 (結果×の場合記入)	● 処置方法の指示及び改善	
		確 認 (印)	/

《ベース B 大壁工法点検表》

承認	確認者
印 /	印 /

(4) 完了点検

現場名	1. 点検日	平成 年 月 日
	2. 点検日	平成 年 月 日
点検者	施工業者	貼り工事 左官工事

点検検査確認事項

点検項目	1回点検内容	結果	処置		結果	処置
		○ ×	×の場合		○ ×	備考へ
左官工事完了	不要材の片付けは					
	建物廻りの清掃は					
	外壁に衝撃をあたえる 諸工事がおこなわれて いないか					
仕上げ工事への 前確認	養生は十分であるか 通常 4日以上 冬期 7日以上					
	目視で外壁面及び開口 部廻り、出隅、入隅等 クラックが発生してい ないか					
	ベース B ラス	ジルコネット	目地ベースモルタル B	ベースモルタル B	ステーブル	
最終確認 使用材数量	() 枚	() 巻 L=50M	() 袋 25kg	() 袋 25kg	箱	

備考	● 是正内容 (結果×の場合記入)	● 処置方法の指示及び改善
		確認 印 /

《写真添付用》

※本マニュアルの内容は、断りなく変更する場合がございますのでご了承ください。

プレミックスの開発メーカー



株式会社 豊運



本社 〒546-0003 大阪市東住吉区今川3丁目12番4号

TEL 06-6708-0015

FAX 06-6708-0501

URL:<http://www.ho-un.co.jp/>

改定 2013/5 第2-3版